



# 校長室の窓から

《校長だより》

神奈川県立市ケ尾高等学校

校長 増淵 広美

平成 30 年 12 月 25 日

第 37 号

今年も残すところ1週間。街中は昨日、今日とクリスマスで賑わっています。

さて、2学期の終業式を迎えるにあたり、2学期を振り返ってみると、9月は文化祭、修学旅行といった大きな行事が集中。9月8日(土)・9日(日)の文化祭では、来場者が約6500名(例年は6000名前後)と近年にない盛況ぶりでした。

大きな行事を終えた10月からは、どの学年もかなり落ち着いて勉強に励めたことと思います。特に2年生は、修学旅行後の学年集会で進路担当の先生から話があり、進路実現に向けて本格的なスタートを切り、そろそろ自分のペースをつかみつつあるのではないのでしょうか。3年生は、1月のセンター試験や志望校の入試本番に向け、受験勉強も大詰め、準備に余念がないことと思います。是非、第一志望にこだわってください。

## ◆ 2学期も多面にわたる活躍や取組がありました

部活以外のいくつかを挙げると、10月20日(土)には、地域の鉄(くろがね)小学校の全校児童、教職員、保護者の皆さんが本校に来校しての交流会、10月27日(土)の学校運営協議会では、委員、生徒、教職員、保護者の四者による「防災」をテーマにした熟議を行い、グループに分かれ活発な意見交換がありました。11月3日(土)の青葉区民まつりでは、市ケ尾ユースプロジェクトが今年も中間発表やアンケート等の活動を行い、11月14日(水)には、慶応大学の厳網林先生をお招きして「食ラボ」のキックオフ。12月1日(土)、2日(日)には第11回地域教育実践交流会(愛媛県)での発表に2名が参加。今年は、市ケ尾ユースプロジェクトの発表に加え、「日本生徒会大賞2018」で優秀賞を受賞した生徒会活動についても発表。12月19日(水)には、「世界のマーちゃん」こと若宮正子さん(エクセルアートやゲームアプリ「hinadan」で有名)による講演。

12月21日(金)球技大会当日には、元キマグレンのクレイ勇輝さんが来校し、放課後、ポニーの丘でのライブパフォーマンスで大いに盛り上がり、その後は「みんなあつまれ」のテーマソング「SO LIFE GOES ON」に合わせてダンス部の振付で皆でダンス、最後にはクレイ勇輝さんやバンドの皆さんも入っての記念撮影。実に盛沢山な一日でした。

行事やイベントを終えた後の勉強に向けた切替の早さは「さすが市高生!」。この「集中と切替」は、本校のよき校風の一つです。3年生の皆さん、来年の4月、新たな舞台で生き生きと輝く自分を思い描き、頑張ってください。

## 祝 バトン部が全国大会出場

本校バトン部が、9月30日(日)の県大会(横浜文化体育館)、11月10日(土)の関東大会(千葉ポートアリーナ)を優秀な成績で通過し、12月8日(土)に幕張メッセで開催された全国大会に出場しました。

本校バトン部は、2年生23名、1年生3名の総勢26名。テーマは「Mystery」。ダイナミックな曲調に合わせ、ミステリアスな世界観を見事に表現。26名でのフォーメーションは迫力があります。今年は、県大会、関東大会、全国大会、全ての応援に行くことができました。大きな大会に進むにつれて演技に表現力と集団美が増していきます。出入りを含めても4分30秒という短い時間に厳しい練習の全てを凝縮して懸命に演技をする部員に胸が熱くなります。そして、演技を終え、出場チーム中唯一「ありがとうございました」と感謝の言葉を残して退場する姿は実にさわやか。

関東大会に続き、全国大会後も全員で校長室に応援のお礼に来てくれました。私の話に全員で返事してくれた涼やかな声は今も心に残っています。

今回の結果は銀賞でしたが、金賞も射程距離。いつも感謝の気持ちを忘れない、バトン部の皆さんのますますの活躍を心から応援しています。



力を出し切った後の笑顔。制限があって素敵な衣装と演技の様子を写真に撮れないのが本当に残念!



## 球技大会 ～地元(中山農園さん)の野菜たっぷりの温かい「豚汁」が大人気～

12月21日(金)の9時から午後3時過ぎまで熱い闘いと応援が繰り返されました。クリスマス間近とあり、トナカイやサンタのついたカチューシャなど、クリスマスの雰囲気を感じながら楽しむ姿も見られました。冬の球技大会の楽しみは何と言っても保護者の皆さんが作ってくださる温かい豚汁。豚汁1500食分に使った野菜は、大根70本、人参140本、ネギ120本等々ものすごい量!その全てをこの日のために、本校テニスコートすぐそばの中山農園さんが心を込めて育てていただきました。路地地でお日様をいっぱい浴びて育てられた野菜は、冬野菜ならではの甘さがあり、おかわりをする生徒が続出でした。

1500食の豚汁づくりには、前日にPTA役員の方5名が下準備にあたり、当日は約70名のサポーターの皆様が参加。年末のお忙しい中を本校生徒のために参加して下さった保護者の皆様に心から感謝申し上げます。



温かい豚汁に笑顔!

### 【球技大会の結果】

男子サッカー	: ①2年10組	②3年2組	③1年2組	女子サッカー	: ①1年8組	②3年8組	③3年2組
男子バスケ	: ①3年3組	②2年4組	③2年5組	女子バスケ	: ①2年1組	②3年10組	③3年1組
混合バレー	: ①2年5組	②3年7組	③2年1組	女子ドッジ	: ①1年6組	②2年2組	③1年8組

## 「凡人の強み」～野村克也氏の講演から～

演題「凡人の強み」に強く惹かれ、11月20日(火)に大磯で開かれた野村克也氏の講演会に行ってきました。野村氏は、プロ野球史に大きな足跡を残す名選手、名監督。その野村氏が「凡人だから成し得たこと」をその生い立ちから話してくださいました。

### ◆ 貧乏からの脱出 ～プロ野球選手を目指す～

野村氏は、幼い時に父親を戦争で亡くし、母親も病弱で家庭は貧乏のどん底。苦労ばかりの母親に楽をさせたい一心で、幼いころから貧乏からの脱出ばかりを考えていたそうです。そこで目指したのが、まずは歌手、次に俳優。どちらも考えられる限りの努力をしますが敢え無く断念。その次に目指したのがプロ野球選手で、中学2年生の時に野球部に入部。すぐに4番・捕手に抜擢され、京都府大会ベスト4に入ります。しかし、貧しい中、兄の取り計らいでやっとなり入学した高校の野球部は、地方大会1回戦負けが常の弱小チーム。野村氏は、高校時代、全く無名の選手でした。しかし、決して夢を諦めません。新聞配達のアルバイトで「南海ホークス テスト生募集」の新聞広告を見かけて応募。見事合格しますが、契約料なし、初任給7,000円(うち3,000円は寮費、1,000円は仕送り)。しかも、テスト生から1軍に上がった者は一人もいないと言われたそうです。

### ◆ ひたすら努力 ～「見ていてくれる人」は必ずいる～

高額報酬のスター選手たちが夜遊びするのに対し、野村氏はお金がないのでひたすらバットの素振りをし、手はマメだらけ。その甲斐あって、3年後にテスト生で唯一残り、念願の1軍入り。野村氏は、30代に入ると、引退後を視野に入れ、解説者を目指してひたすら勉強しました。というのも、当時のプロ野球の監督は大卒ばかりだったので、高卒のご自身が、監督になるなど夢にも考えていなかったからです。しかし、解説者を目指して徹底して野球について学んだことが功を奏し、35歳の若さで、「4番打者」「捕手」「監督」の重責を担うプレイングマネージャーになります。その時のことを、感慨を込めて「頑張っていれば、見ていてくれる人は必ずいる」とおっしゃっていました。

### ◆ 紆余曲折を経てヤクルトの監督へ ～経験は全てつながる～

その後、南海からロッテに移籍、さらに西武に移籍し、数々の功績を残して1980年に引退。1981年からは野球解説者、野球評論家として活躍。その鋭い解説が評価され、1989年にヤクルトから監督就任の要請を受けました。まさに「見ている人は見ている」です。当時のヤクルトは、5、6位を低迷していたそうですが、野村氏は、監督就任後、そのチームをリーグ優勝4回、日本一3回に導きます。これは、選手、監督、野球解説者等、それまでの全ての経験が繋がってこその実績だと思います。どんな経験も全てが力になります。

その後、野村氏の講演は、当時のヤクルトの選手であった古田選手、新庄選手、田中選手(マー君)の話に及び、ユーモアたっぷりのお話で聴衆を楽しませてくださいました。

### ◆ 「凡人の強み」とは ～「凡人」であるがゆえの謙虚さと努力～

「凡人だから成し得たこと」として話された野村氏の人生は、凡人どころか「非凡」な人生。しかし、それは結果であり、その人生を貫くものは、自らを「凡人」ととらえる謙虚さ、そして、だからこそできる徹底した努力です。それこそが「凡人の強み」であり、大きなことを成し遂げる原動力なのだと思います。

最後に、野村氏の講演で心に残った言葉をいくつか紹介します。

「失敗」と書いて「せいちょう」と読む(失敗から学び、成長する)  
言い訳は進歩の敵(自分を守るのではなく自分を攻める)  
夢は見るだけでなく叶うもの(夢を持ち続けて今がある)

## ■ 野村克也氏プロフィール

1935年生まれ。野球評論家。京都府立峰山高校を卒業し、1954年にテスト生として南海ホークスに入団。3年目の1956年からレギュラーに定着すると、現役27年間にわたり球界を代表する捕手として活躍。歴代2位の通算657本塁打、戦後初の三冠王など数々の記録を打ち立て、不動の正捕手として南海の黄金時代を支えた。1970年、南海でのプレイングマネージャー就任以降、延べ四球団で監督を歴任。インタビュー等でみせる独特の発言はボヤキ節と呼ばれ、その言葉はノムラ語録として多くの書籍等で野球ファン以外にも広く親しまれている。スーパースターであった王・長嶋と比較して、自らを「月見草」に例えた言葉は有名。現在は野球解説者としても活躍。(野村克也氏オフィシャルサイトより抜粋)

## 「おやじの会」の皆さんに感謝！ ～学校がどんどんきれいになります～

これまでも学習環境の整備に多々ご尽力くださった「おやじの会」の皆さんが、この秋から冬にかけて、外塀等の高圧洗浄と中央棟階段の壁の塗装をしてくださいました。

### ■ 苔むした外塀がみるみるきれいになる！

本校の所々苔むした外塀が、見違えるようにきれいになっていることに気づいていますか。

10月6日(土)を皮切りに「おやじの会」の皆さんが、4回にわたり、高圧洗浄機で外塀や正門を入れてすぐの校舎の壁などの積年の汚れを洗い流してくださいました。私もすぐそばで洗浄の様子を見ましたが、高圧洗浄の威力はすごい！外塀の苔も汚れもみるみるきれいになります。しかし、高圧洗浄は水を扱ってのたいへんな作業。しかも、校地も広く、外塀の高さも人の背丈より高いので、洗浄しなくてはならない表面積は相当のもの。それを休日返上できれいに洗い流してくださいました。お陰様で校舎や外塀に明るさが戻りました。

### ■ 中央棟階段の壁を生徒、教員も塗装！

12月8日(土)、9日(日)の二日にわたり、「おやじの会」の皆さんと生徒、教員の有志で、中央棟の2～5階の階段の壁を塗装。当日は、参加者がそれぞれ担当箇所を決め、心を込めて塗装。初めてペンキ塗りに挑戦する生徒もいましたが、できあがりは上々です。

### ■ 「古くてもきれい」な居心地のよい学校を！

おやじの会には、卒業生の保護者の方々も引き続き参加してくださっています。おやじの会の皆様に心から感謝申し上げます。

私たち教職員も、そして、生徒の皆さんも、掃除や整理整頓に余念なく、「古くてもきれい」な居心地のよい学校にしていきたいと思います。



「おやじの会」にはお母様方や卒業生の保護者の方も参加！



担当箇所を心を込めて丁寧に塗ります。